

4 徳島県立文学書道館【29,205千円】

文学・書道資料の収集・保存、調査研究に努めるとともに、その成果を展示や催し、教育普及事業等に活かし、広く県内外から親まれる施設となるよう魅力ある事業展開を図る。

(1) 顕彰、表彰事業【1,670千円】

	事業名	概要	金額(円)
1	第22回とくしま文学賞	<p>広く県民から文芸作品(小説・脚本・文芸評論・児童文学・随筆・現代詩・短歌・俳句・川柳・連句の10部門)を募集し、発表の場を提供することにより文芸活動の活性化、県民文化の向上を図る。各部門の入選作品は、「文芸とくしま」に掲載する。</p> <p>応募締切:9月30日(月)当日消印有効 発表:12月中旬(新聞紙上・館内掲示・HP) 表彰式:令和7年2月11日(火・祝)</p>	1,670,000
	小計		1,670,000

(2) 年鑑編集・刊行事業【400千円】

	事業名	概要	金額(円)
1	研究紀要「水脈」20号	<p>館が所蔵する文学者や書家に関する作品や資料等の調査研究を行い、その成果を紹介するために刊行する。</p> <p>B5版サイズ 700部 販売価格:無料</p>	400,000
	小計		400,000

(3) 教育普及育成事業【4,809千円】

	事業名	概要	金額(円)
1	文学講座 小説を書こう	<p>徳島には「とくしま文学賞」などの文学賞があり、「小説を書きたい」という人も多くいるが、その意欲の受け皿となるものがない。県民の創作意欲をサポートし、徳島県における芸術文化の広い浸透を図る。</p> <p>日時:令和6年5月～11月(全4回) 会場:講座室</p>	722,000
2	文学講座 芸術・文化を語る	<p>徳島ゆかりの4人の芸術家・研究者に専門分野の話をしていただき、芸術・文化への関心を深めてもらう。</p> <p>日時:令和6年6月～9月(全4回) 会場:講座室</p>	500,000

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	金額(円)
3	文学講座 第4回 原爆朗読劇 「夏の雲は忘れない」	朗読、スライド投影、ピアノ演奏を融合させながら、「反戦・平和」の思いを継続して伝える。 日時:令和6年8月4日(日) 会場:ギャラリー	500,000
4	第23回言の葉朗読会	朗読愛好家がそれぞれ選んだ文学作品を5分以内で朗読する。朗読を楽しみ、朗読の質の向上をめざす人たちに舞台を提供し、朗読を聞くことが好きな人たちにその機会を設ける。 日時:令和6年9月14日(土) 会場:講座室	10,000
5	秋の文学講演会	第一線で活躍している作家、詩人、歌人、俳人などを招いて、これまでの歩み、自作について、創作の方法などのテーマで話してもらい、文学と芸術、世界と人間の在り方について理解を深める。 日時:令和6年10月～11月(全2回) 会場:ギャラリー	650,000
6	文学講座 古典を読む	古典文学をとりあげて講義する。質の高い文学作品に触れ、より深い古典の世界を学んでもらう。 日時:令和6年11月～令和7年3月(全4回) 会場:講座室	110,000
7	書道講座 書道講演会	書の専門家、評論家、美術館学芸員、書や筆・墨・硯・紙に関する本の著者、話題の人などを講師に招く。 日時:未定 会場:ギャラリー	182,000
8	書道講座 一流書家による席上揮毫	美術館などで書道作品を鑑賞する機会があっても、書家が揮毫する様子を見る機会が少ない。書道界の第一線で活躍している書家を招き、席上揮毫のほか、揮毫作品の制作意図や技術的なこと、書に対する自身の考え、書道道具へのこだわりなどを語ってもらう。講座終了後にロビーで揮毫作品展を開催する。 日時:未定 会場:ギャラリー	330,000

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	金額(円)
9	書道講座 新春 書き初め 大字に 挑戦!	小学生対象の講座。新年の書き初めにちなんで、好きな漢字一字を特大筆(全長46cm・穂長14.5cm・穂径4cm)で68×70cmの紙に書く。大字を書くことで、書に親しみ、書の楽しさを知ってもらおう。 日時:令和7年1月13日(月・祝) 会場:講座室・実習室	44,000
10	書道講座 書の鑑賞	書の鑑賞については、「文字が読めないから難しい」「芸術的な作品の良さが分からない」などの声が聞かれる。本講座では、著名な書の専門家を講師に招き、幅広い年代の人にわかりやすく書の見方を解説し、書の魅力を知ってもらおう。 日時:未定 会場:ギャラリー	182,000
11	書道講座 書道実技講座	書の技術の習得は容易なことではないが、専門家に直接実技指導をしてもらうことで、感覚的なコツや美的センスなどを学ぶことができる。本講座を通して、書の技術の向上を図り、書道愛好家を増やしたい。 日時:未定(全3回) 会場:実習室	179,000
12	ことのはロビーコンサート	文学書道館に対する「敷居が高そう」「入りづらい」などのイメージを払拭し、気軽に音楽と文学・書道のつながりを楽しんでもらう。各回に招く演奏者には、言葉や文学にまつわる曲、開催中の展覧会に関わる曲などをプログラムに組み込んでもらい、文学書道館ならではの独創性も生み出す。 日時:令和6年5月～令和7年3月(全6回) 会場:ロビー	1,400,000
	小計		4,809,000

(4) 展示事業【22,326千円】

	事業名	概要	金額(円)
1	文学常設展 瀬戸内寂聴記念室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴の人生の歩みと寂聴文学を紹介する。京都・嵯峨野「寂庵」を模した書斎や、心和む日本庭園を設置している。また、年1回程度の展示替えを行っている。 期間:通年 会場:瀬戸内寂聴記念室	-
2	文学常設展 文学常設展示室 (常設展示事業)	徳島ゆかりの文学者とその作品、著名作家が徳島を描いた文学作品などをさまざまな角度から紹介している。展示室では、企画展も開催している。 期間:通年 会場:文学常設展示室	-
3	文学常設展 収蔵展示室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴寄贈による日本近代女性史の貴重な研究資料など、豊富な資料を保管している収蔵庫内をガラス越しに公開している。また、特別展に関連した展示や収蔵品の紹介も行う。 期間:通年 会場:収蔵展示室	-
4	書道常設展 書道美術常設展示室 (常設展示事業)	収蔵品の中から、徳島ゆかりの書家の作品を中心に展示している。また、小坂奇石の息づかいが感じられる書斎を再現している。年3回展示替えをし、豊富な作品を幅広く紹介する。 期間:通年 会場:書道美術常設展示室	-
5	文学特別展 寂聴とインド (特別展示事業)	瀬戸内寂聴は出家後、20年余りの間に約10回インドを訪れ、釈迦や仏僧たちの遍歴の跡、生と死、清濁入り交じる風景と文化、その息吹に触れながら汲み上げたものを文章に残している。本展では、インド旅行の中で生まれた小説や随筆、写真や取材ノートなども併せて紹介する。 期間:令和6年4月9日(火)~5月26日(日) 42日間 会場:特別展示室・収蔵展示室	2,194,000

(4) 展示事業

	事業名	概要	金額(円)
6	書道特別展 受贈記念 青山杉雨展 (特別展示事業)	戦後の現代書の象徴的な存在であり、またリーダーとして常に書壇を牽引した書家・青山杉雨の、令和4年度に文学書道館に寄贈された比較的若い時期から晩年に至るまでの作品101点を2期に分けて展示する。 期間:令和6年6月14日(金)～8月4日(日) 44日間 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	1,614,000
7	文学特別展 太宰治 創作の舞台裏 (特別展示事業)	戦前戦後に活躍した太宰治の原稿・草稿やノート、構想メモなどの資料を丹念に追い、作品成立の過程に光を当てた展覧会「太宰治 創作の舞台裏」(日本近代文学館編集)を開催する。また、日本の昔話をパロディにした『お伽草子』収録の「瘤取」は、舞台が「阿波、剣山のふもと」で、鬼に捕まったじいさんが阿波踊りを踊るというストーリー。徳島ゆかりのこの作品も紹介する。 期間:令和6年8月10日(土)～9月23日(月・祝) 40日間 会場:特別展示室・収蔵展示室	4,166,000
8	書道特別展 源氏物語と日本古典文学―石川九楊展 (特別展示事業)	書家で評論家の石川九楊は、現代における書の表現を追い求め、現代美術のような独特の世界観を持つ書を生み出し続けている。本展では、石川が全精力と全技法を駆使して『源氏物語』の各帖を書き分けた代表作「源氏物語五十五帖書巻」や「歎異抄」など日本の古典文学を題材にした作品を展示し、独創性あふれる石川の書の世界を紹介する。 期間:令和6年10月5日(土)～11月17日(日) 38日間 会場:特別展示室・書道美術常設展示室・収蔵展示室	6,357,000
9	文学特別展 編集者・谷田昌平と第三の新人たち 徳島編 (特別展示事業)	遠藤周作と参加した「構想の会」で“第三の新人”一島尾敏雄、小島信夫、庄野潤三、安岡章太郎、吉行淳之介らと出会った谷田昌平。新潮社の編集者として幅広い世代の作家たちを担当し、新たな挑戦を続けながら多くの名作を世に送り出した。2017年に町田市民文学館で開催された「没後10年編集者・谷田昌平と第三の新人たち」展をもとに、少年時代を徳島で過ごした谷田昌平の仕事と生涯を、徳島県民に広く紹介する。 期間:令和6年12月17日(火)～令和7年2月11日(火・祝) 42日間 会場:特別展示室・収蔵展示室	3,600,000

(4) 展示事業

	事業名	概要	金額(円)
10	書道特別展 小坂奇石－大分に残る 名品 (特別展示事業)	徳島ゆかりの書家・小坂奇石は、独自の書風を確立した昭和時代を代表する書家である。当館では、遺族より寄贈された作品を中心に約500点を収蔵しており、毎年テーマを変えて特別展を開催している。今回は大分県在住の奇石の門下生が愛蔵する作品を展示する。現代書道二十人展や日展の出品作など当館ではいずれも初展示となる作品で、館蔵品にはない作風もあり、奇石の多様性を知ってもらおう。 期間:令和7年2月15日(土)～3月23日(日) 32日間 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	2,380,000
11	文学企画展 追悼・森内俊雄－眉山 は救いの山である (企画展示事業)	文学書道館の常設展示作家で、徳島大空襲の過酷な体験を描いた「眉山」など、優れた作品を残した作家の森内俊雄が令和5年8月5日、86歳で亡くなって間もなく1周忌を迎える。森内俊雄は大阪生まれだが、両親と夫人が徳島出身で、徳島大空襲を体験するなど、徳島との縁は極めて深い。眉山のある徳島を愛し続けたこの作家の人と文学を振り返る。 期間:令和6年6月29日(土)～9月29日(日) 81日間 会場:文学常設展示室	500,000
12	書道企画展 中林梧竹展－『梧竹堂 書話』に学ぶ (企画展示事業)	中林梧竹は近代書道史に名を連ね「明治の三筆」に挙げられる書家である。当館では、梧竹を支援し、梧竹の作品を収集した海老塚的伝氏から徳島県に寄贈された傑作を中心に約300点を収蔵しており、毎年テーマを変えて梧竹の作品を紹介している。今回は梧竹の書論『梧竹堂書話』に着目し、作品とともに『梧竹堂書話』の文章を展示する。作品の根底にある梧竹の考えを紹介し、梧竹作品の理解や鑑賞を深めてもらう。 期間:令和6年8月6日(火)～9月29日(日) 49日間 会場:書道美術常設展示室	266,000
13	文学企画展 山下富美－“生活の炎” を見つめた歌人 (企画展示事業)	1925年、徳島市に生まれた歌人・山下富美は、河合恒治らとともに歌誌「四国水甕」を創刊、「水甕」選者や徳島新聞の歌集評担当を長く務めるなど、歌壇に多大な貢献を果たした。空前の短歌ブームが到来している今、日常の事実だけにとどまらず、女性としての内面を追求した数々の心象詠とともに、人生の歩みを紹介する。 期間:令和6年11月3日(日・祝)～令和7年2月2日(日) 72日間 会場:文学常設展示室	500,000

(4) 展示事業

	事業名	概要	金額(円)
14	書道企画展 第9回 書道創作グラン プリ (企画展示事業)	徳島県内の小学4年生から高校生までもを対象とする書道コンクール。作品応募による予選を行い、予選通過者を対象に当館で本選を実施。本選当日に課題を発表し、お手本なしで創作する全国でも稀なコンクールである。席書作品270点(各学年30点。高校は「漢字」「漢字仮名交じり」「仮名」の3部門各30点以内)と招待参加者(これまでのグランプリ受賞者、準グランプリ2回受賞者)の作品を展示し、各学年・部門のグランプリ、準グランプリ、優秀賞受賞者90人を表彰する。 期間:令和6年11月30日(土)~12月8日(日) 8日間 会場:ギャラリー	749,000
	小計		22,326,000
	合計		29,205,000

令和5年度 徳島県立文学書道館事業計画

文学・書道資料の収集・保存、調査研究に努めるとともに、その成果を展示や催し、教育普及事業等に活かし、広く県内外から親しみ利用される施設となるよう魅力ある事業展開を図る。

(1) 顕彰、表彰事業【予算 1,670千円】

	事業名	概要	経費(円)
1	第21回とくしま文学賞	<p>広く県民から文芸作品(小説・脚本・文芸評論・児童文学・随筆・現代詩・短歌・俳句・川柳・連句の10部門)を募集し、発表の場を提供することにより文芸活動の活性化、県民文化の向上を図る。各部門の入選作品は、「文芸とくしま」に掲載する。</p> <p>応募締切:9月30日(土)当日消印有効 発表:12月中旬(新聞紙上・館内掲示・HP) 表彰式:令和6年2月11日(日・祝)</p>	1,670,000
	小計		1,670,000

(2) 年鑑編集・刊行事業【予算 400千円】

	事業名	概要	経費(円)
1	研究紀要「水脈」20号	<p>館が所蔵する文学者や書家に関する作品や資料等の調査研究を行い、その成果を紹介するために刊行する。</p> <p>B5版サイズ 700部 販売価格:無料</p>	400,000
	小計		400,000

(3) 教育普及育成事業【予算 5,489千円】

	事業名	概要	経費(円)
1	文学講座 創作講座	<p>徳島には「とくしま文学賞」などの文学賞があり、「小説を書きたい」という人も多くいるが、その意欲の受け皿となるものがない。県民の創作意欲をサポートし、徳島県における芸術文化の広い浸透を図る。</p> <p>日時:令和5年5月～11月(全5回) 会場:講座室</p>	700,000
2	文学講座 芸術・文化を語る	<p>徳島ゆかりの芸術家・研究者に専門分野の話をしていただき、芸術・文化への関心を深めてもらう。</p> <p>日時:令和5年6月～9月(全4回) 会場:講座室</p>	700,000
3	文学講座 原爆朗読劇 「夏の雲は忘れない」	<p>原爆朗読劇「夏の雲は忘れない」を一昨年、昨年に引き続いて上演する。朗読、スライド投影、ピアノ演奏を融合させながら、平和のメッセージを届ける。</p> <p>日時:令和5年8月6日(日) 会場:ギャラリー</p>	700,000
4	第22回言の葉朗読会	<p>朗読愛好家がそれぞれ選んだ文学作品を5分以内で朗読する。朗読を楽しみ、朗読の質の向上をめざす人たちに舞台を提供し、朗読を聞くことが好きな人たちにその機会を設ける。</p> <p>日時:令和5年9月23日(土・祝) 会場:講座室</p>	20,000

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	経費(円)
5	文学講座 短歌を作ろう	「雲珠短歌会」代表で徳島新聞「徳島歌壇」選者でもある竹安隆代氏を講師に迎え、優れた短歌の鑑賞と実作を行う。また参加者がお互いの作品について感想を述べ合い、歌境を深める。 日時: 令和5年10月～令和6年3月(全6回) 会場: 講座室	220,000
6	秋の文学講演会	第一線で活躍している作家、詩人、歌人、俳人などを招いて、これまでの歩み、自作について、創作の方法などのテーマで話してもらい、文学と芸術、世界と人間の在り方について理解を深める。 日時: 令和5年10月～11月 会場: ギャラリー	700,000
7	文学講座 古典を読む	徳島大学総合科学部の堤和博教授を講師に迎え、古典文学をとりあげて講義する。 日時: 令和5年11月～令和6年3月 会場: 講座室	110,000
8	書道講座 一流書家による席上揮毫	書道界の第一線で活躍している書家を招き、席上揮毫のほか、揮毫作品の制作意図や技術的なこと、書に対する自信の考え、書道道具へのこだわりなどを語ってもらう。なお、講座終了後にロビーで揮毫作品展を開催する。 日時: 令和5年7月17日(月・祝) 会場: ギャラリー	326,000
9	書道講座 書の鑑賞	書の鑑賞については、「文字が読めないから難しい」「芸術的な作品の良さが分からない」などの声が聞かれる。本講座では、著名な書の専門家を講師に招き、幅広い年代の人にわかりやすく書の見方を解説し、書の魅力を知ってもらう。 日時: 令和5年10月21日(日) 会場: ギャラリー	182,000
10	書道講座 書道講演会	書の専門家、評論家、美術館学芸員、書や筆・墨・硯・紙に関する本の著者、話題の人などを講師に招き、講演会を開催する。 日時: 令和5年11月5日(日) 会場: ギャラリー	182,000
11	書道講座 新春 書き初め 大字に挑戦!	小学生対象の講座。新年の書き初めにちなんで、好きな漢字一字を特大筆(全長46cm・穂長14.5cm・穂径4cm)で68×70cmの紙に書く。大字を書くことで、書に親しみ、書の楽しさを知ってもらう。 日時: 令和6年1月8日(月・祝) 会場: 講座室・実習室	49,000

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	経費(円)
12	書道講座 書道実技講座	書に関わる技術の習得は容易なことではないが、専門家に直接実技指導をしてもらうことで、感覚的なコツや美的センスなどを学ぶことができる。本講座を通して、書に関わる技術の向上を図り、書道愛好家を増やしたい。 日時:令和6年2月～3月(全3回) 会場:実習室	200,000
13	ことのはロビーコンサート	文学書道館の存在を知ってもらい、気軽に足を運んでもらうことを目的とする。各回、徳島ゆかりの演奏家には、言葉や文学にまつわる曲、開催中の展覧会に関わる曲をプログラムに組み込んでもらい、文学書道館ならではの独創性も生み出す。 日時:令和5年5月～令和6年3月(全6回) 会場:ロビー	1,400,000
	小計		5,489,000

(4) 展示事業【予算 18,642千円】

	事業名	概要	経費(円)
1	文学常設展 瀬戸内寂聴記念室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴の人生の歩みと寂聴文学を紹介する。嵯峨野「寂庵」を模した書斎や、心和む日本庭園を設置している。また、年1回程度の展示替えを行っている。 期間:通年 会場:瀬戸内寂聴記念室	-
2	文学常設展 文学常設展示室 (常設展示事業)	徳島ゆかりの文学者とその作品、著名作家が徳島を描いた文学作品などをさまざまな角度から紹介している。展示室では、企画展も開催している。 期間:通年 会場:文学常設展示室	-
3	文学常設展 収蔵展示室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴寄贈による日本近代女性史の貴重な研究資料など、豊富な資料を保管している収蔵庫内をガラス越しに公開している。また、特別展に関連した展示や収蔵品の紹介も行う。 期間:通年 会場:収蔵展示室	-
4	書道常設展 書道美術常設展示室 (常設展示事業)	収蔵品の中から、徳島ゆかりの書家の作品を中心に展示している。また、小坂奇石の息づかいが感じられる書斎を再現している。年3回展示替えをし、豊富な作品を幅広く紹介する。 期間:通年 会場:書道美術常設展示室	-
5	文学特別展 寂聴 美のコレクション (特別展示事業)	瀬戸内寂聴は絵画や書を好み、常に身の回りに置いて、創作のインスピレーションを得ていた。それらの美術品を展示し、小説や随筆の中でどう描かれているかを取り上げる。また、美術家との深い交流も紹介する。 期間:令和5年4月8日(土)～5月28日(日) 44日間 会場:特別展示室・収蔵展示室	2,120,000

(4) 展示事業

	事業名	概要	経費(円)
6	書道特別展 小坂奇石－自作の漢詩 を書く (特別展示事業)	小坂奇石(1901～91年)は、独自の書風を確立した、昭和を代表する書家である。今回は、小坂奇石自身が詠んだ漢詩を題材にした館蔵の書作品を展示し、漢詩の内容や、その特徴も紹介する。 期間:令和5年6月16日(金)～8月3日(木) 42日間 会場:特別展示室・ギャラリー	1,388,000
7	文学特別展 富士正晴と「VIKING」の 同人たち (特別展示事業)	徳島県三好市出身の作家・富士正晴(1913－1987年)は、戦争体験をもとに書いた「敗走」「徴用老人列伝」で芥川賞候補、「桂春団治」で毎日出版文化賞を受賞するなど作家として活躍する一方、島尾敏雄らと同人誌「VIKING」を創刊し、多くの書き手を育てた。富士正晴と「VIKING」同人たちを作品とともに紹介する。 期間:令和5年8月11日(金)～9月24日(日) 42日間 会場:特別展示室・ギャラリー	2,643,000
8	書道特別展 勝瀬景流－力強く、流麗 な仮名 (特別展示事業)	徳島県小松島市出身の書家・勝瀬景流(1941－2011年)は、若くして中央展で受賞を重ね、徳島県在住作家として初の日展特選を連続受賞し、日展審査員や徳島県美術家協会理事ほか県内外の多くの重職を歴任した。本展では、仮名や漢字仮名交じりの書、ペン字の作品を展示し、強さを含んだ、現代的センスあふれる勝瀬景流の作品を紹介する。 期間:令和5年9月30日(土)～11月12日(日) 38日間 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	1,913,000
9	文学特別展 田中富雄と「徳島作家」 の時代 (特別展示事業)	徳島県徳島市出身の小説家・田中富雄(1918－2004年)は、戦後の徳島の文芸復興に尽力し、文芸界を牽引した。田中が創刊した「徳島作家」は、岡田みゆき、中川静子といった芥川賞、直木賞候補作家を輩出し、全国的にも名を知られた同人誌として、今なお語り継がれている。創刊者である田中富雄と、ここで活躍した作家たちの作品と業績を中心に、昭和から平成にかけての「徳島作家」の歩みについて紹介する。 期間:令和5年12月12日(火)～ 令和6年2月12日(月・振休) 48日間 会場:特別展示室・収蔵展示室	2,647,000
10	書道特別展 角元正燦－書は自画像 である (特別展示事業)	徳島県阿南市出身の書家・角元正燦(1947年-)は、日展、読売書法展、謙慎書道展などの中央展に出品し、2012年からは現代書道二十人展のメンバーに選ばれ作品を発表。さらに、日展の審査員を務めるなど、現代書壇の第一線で活躍している。2024年に喜寿を迎える角元氏の代表作を中心に展示し、その業績と書の世界を紹介する。 期間:令和6年2月16日(金)～3月24日(日) 33日間 会場:特別展示室・ギャラリー・書道美術常設展示室	6,320,000

(4) 展示事業

	事業名	概要	経費(円)
11	企画展 中林梧竹ーデザイン性 あふれる金文 (企画展示事業)	中林梧竹は近代書道史に名を連ね、明治の三筆に挙げられる書家である。当館では、梧竹の支援者であった海老塚の伝氏より寄贈された傑作を中心に約300点を収蔵しており、毎年テーマを変えて梧竹の作品を紹介している。今回は、青銅器などに刻まれた文字「金文」を題材にした作品を展示し、梧竹のデザイン性豊かな作品を紹介する。 期間: 令和5年6月13日(火)~9月24日(日) 91日間 会場: 書道美術常設展示室	210,000
12	文学企画展 宮武健仁写真展 (企画展示事業)	写真家の宮武健仁(1966年-)は、吉野川、四万十川、瀬戸内海などの水の風景や、桜島の噴火、水辺に輝く蛍やキノコなど“光る生き物”を被写体とした写真によって高い評価を得ている。写真集の出版、個展の開催、メディアへの出演も多く、徳島を代表する写真家の一人である。今回の展覧会では、2023年1月刊行の写真集から蛍の作品を中心に、池田に伝わる祭礼の写真なども紹介し、それぞれの作品に宮武自身による「ことば」を付ける。 期間: 令和5年10月3日(火)~10月14日(日) 11日間 会場: ギャラリー	600,000
13	書道企画展 第8回 書道創作グランプリ (企画展示事業)	徳島県内の小学4年生から高校生までを対象とする書道コンクール。作品応募による予選を行い、予選通過者を対象に当館で本選を実施。本選当日に課題を発表し、お手本なしで創作する全国でも稀なコンクールである。席書作品270点(各学年30点。高校は「漢字」「漢字仮名交じり」「仮名」の3部門各30点以内)と招待参加者(これまでのグランプリ受賞者、準グランプリ2回受賞者)の作品を展示し、各学年・部門のグランプリ、準グランプリ、優秀賞受賞者90人を表彰する。 期間: 令和5年12月2日(土)~10日(日) 8日間 会場: ギャラリー	801,000
	小計		18,642,000
	合計		26,201,000